



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第9回例会(9月6日)
平成25年9月13日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例会場 同上 TEL(651)1111(代)
FAX(653)5622
例会日 毎週全曜日12時30分～

会長 平井 滋
幹事 平野 佳則
会報 金子 真也
クラブ直通電話 TEL(653)5682

Engage Rotary, Change Lives. 'ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を'…… Ron D. Burton



ゲスト卓話

「あの日あの時 災害物流への挑戦」

(公社)岩手県トラック協会 専務理事
佐藤 耕造 様

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、岩手県に広域にわたって甚大な被害をもたらしました。

3・11の大震災から2年6ヶ月が経ちましたが、雇用も含めて県内産業にも深刻な影響を受け被災地の復興はまだまだ先のことです。むしろ本当の復興はこれからという状況だと思えます。

緊急物資輸送の話の前に当協会の被災状況をご説明しますと、死者46名流失車両483両被災事業者101社でした。

協会としては、緊急支援対策として資金5億円を準備し、被災状況により全壊事業者に500万円、半壊事業者200万円、車両購入支援、信用保証料の補助等、事業再開に向けた支援を行いました。

現在はほとんどの事業者が事業を再開しておりますが水産業の復旧の遅れから輸送量が回復していない。事業者は一般のトラックからダンプカーに切り替え瓦礫輸送に転嫁した業者もあり、経営は厳しい状況にあります。

それでは岩手県トラック協会が行った緊急物資輸送についてお話しさせていただきます。

甚大な被災の中で岩手県トラック協会が担当した物資の輸送先は、被災地12市町村にわたりました。

岩手県トラック協会が行った作業方法が、後

に「岩手方式」として各界から評価を受けましたが、何が評価されたのか。

なぜ「岩手方式」?

1. 過去の災害発生時(神戸・新潟)行った物資輸送の方法と全く違った方法で実施した。
 - ・物資を倉庫に分散せず、アピオ・花巻空港の2ヶ所に集約し、荷受け・仕分け・保管・荷揃え・搬送を荷役機械を使用し効率的に作業した。
 - ・過去の被災地における過去の作業方法は、倉庫に分散し手作業に近い作業方法で実施されていた。
 - ・国交省の支援物資についての報告書に、物流の問題点を踏まえ改善策が示された。

施設には大型トラックが直接入ることができ、フォークリフトなどの機械が使用できること条件、1次集積拠点は被災地から離れた場所に置くことが物流の円滑化につながる。

事実上「岩手方式」をモデルケースとして取り上げている。

また、NHK盛岡放送局制作「あの日あの時」でも紹介して頂いた。

- ・最初から「岩手方式」としてマニュアル化されていたものではなかった。ただ被災地へ一刻も早く物資を届けたいとの一念から走りな

がら作業をした結果、後に県・国・学者さんたちが、かつてない画期的な作業方法だと言うことで「岩手方式」という名称で呼ばれるようになり、首都圏直下型地震・南海トラフ等発生時の対策として「岩手方式」が全国に広まっていった。

- ・東日本大震災での緊急輸送で IRU グランプリ賞を受賞。

貨物輸送・旅客輸送分野において顕著な業績、特別優れた社会貢献活動、勇気ある活動を行った運送事業者を表彰する制度で2012年 IRU（国際道路輸送連盟）グランプリ賞を受賞した。全国の緊急輸送を対象にしているが内容は岩手方式を主体として発表している。私自身思いもしない結果に驚いている。

- ・救援物資の輸送を何としても成功させたいという気持ちにさせたのは被災を受けた運送会社の社長の一言が大きな要因だった。それは「専務、おら何もなくなったぜ、家族同様の社員も失った、専務助けてける」この言葉が胸にズシッと来た。この事業者は、協会も支援しましたが、本人の前に進むしかないとの決意で今は事業も再開している。

2. 民間倉庫を使用しなかった理由

神戸・新潟地震の際、岩手の場合受入側ではなく送り出す側だった。岩手から救援物資を積んで現地に向かい、翌朝ついても、既に倉庫が満杯で卸す場所がない、人手がない、等の理由で到着いた車両が夕方になっても卸せない状態であった。

- ・神戸、新潟とも物資の受入を、倉庫を数多く使用した。物資を品目別に分散保管した。
- ・倉庫は、保管機能はあるが作業効率は悪い。
- ・倉庫には、通常の貨物が保管されていて、空きスペースが少ない。
- ・保管した物資の作業は手作業となる。（作業スペースが狭く荷役機械の使用が難しい。人手が多くかかり効率が悪い。）

この考え方は、倉庫を否定したものではなく営業倉庫は通常貨物を保管していて、災害発生時に倉庫を空けるわけにはいかないという大きな理由がある。

3. 岩手では

- ・当初県が県職員で11日の夜から全農の農業倉庫及び純情米センターで物資の受け入れを準備し12日朝から受け入れ作業を開始していた。私は11日夜に県庁から自宅に電話がありトラックの要請を受けた。この時点で通信は途絶えており、県庁からは非常電話で来るが、私の方からは通じない。自家用車で数社の社長の自宅を回ってトラックの手配をした。12日の朝農業倉庫に行ってみたら、既に東京、大阪から毛布、水等が大量に到着していて倉庫に入りきれなくなっていた。
- ・12日県庁に向かい、あの状態では全国から来る物資の受け入れできる状況にはない、別の方法を考えましようと言う提案をした。

〈拠点の条件〉

- ・県内に2から3か所程度の拠点を設置する。倉庫は使用しない。
- ・物資の受入れ、搬出は手作業ではなく、機械作業を基本とする。
- ・大型車両が建物に直接入ることが可能な施設と大規模駐車場を有すること。
- ・24時間作業ができる施設（発電機能を有していること。）

停電が続いているため通常の施設では夜間は作業が出来ず日中作業となる。

全国から来る物資を受け入れるためには日中は搬出作業が中心となるため、受入は主に夜間とする。

4. 拠点の条件を具備している次の2ヶ所を県に提案し了承された。

- ・岩手県産業文化センター（アピオ）
 催事場 3,600 m²（床耐荷重 5 t/m²）大型トラックが直接入れる。
 付属施設 2,800 m² 第1駐車場 1,100 台
 第2駐車場 1,400 台
 インターチェンジに近い
- ・花巻空港（除雪車庫）

5. 作業体制（アピオ）

- ・管理業務 協会職員 10 名 県職員 6 名
 物資の受入、搬出の管理、作業員の管理、車両配車、在庫の把握

- ・作業業務 作業員 24 時間体制のため 180 人確保 (60 人 3 交代)
運転手フォークリフト運転手 8 名
機械フォークリフト 8 台
パレット 1,000 枚
- ・警備業務搬入・搬出車両のチェック・警備業務 24 時間体制

〈花巻空港〉

- ・協会支部職員 2 名 作業員 15 名 (24 時間体制)

6. 1 日の作業料 (アピオ)

- ・到着車両最大時 10 トン車 70 台 搬出時 4 トン・10 トン 60 台
- ・緊急輸送車両台数延べ 2,418 台 延作業要員 5,063 名

7. 他県の状況

- ・宮城県 受入物資を倉庫 25 ケ所に分散保管、スペースに限界があり搬入量が搬出量を上回り、暫定的に受入を停止、県外の保管場所へ移送した。
- ・福島県 発災後民間倉庫 9 ケ所を一次集積拠点として使用、運営については当初の混乱期を除けば、ほぼ順調に機能した。

8. 検討課題

- ・県との関係強化 (情報の共有のための体制づくり)
災害協定の見直しの中で、拠点配置の検討・作業体制の確立を明確にした。
- ・通信不能 (震災時より停電のため全機能を失う)
協会としては県内 13 支部に衛星携帯電話及び発電機を配置した。
- ・燃料不足 (車両走行できず)
事業協同組合の給油スタンドを使用する。(緊急車両のみ)
スタンドへの補給については、県との協議により優先補給する。
- ・道路不通被災地に近いほど道路条件悪化
県と県警とで取扱う。県が県警の委託を受け、緊急証明を発行する。
事業者が直接警察署への申請は行わない。(許可まで時間を要する)

- ・現地市町村から避難所までのシステムの構築 (被災地の市町村の被害が甚大で機能を失い手が回らなかった。)

市町村の拠点から避難所までの配送は、宅配業者を中心に行う。

9. 決断と実行 (災害時の物流関係者の心構え)

異常時に必要な考えは、平時とは全く異なる「決断と実行」に尽きる。

(平時での物事の決定は協議を経るため時間を要す。)

10. 危機予測

災害時の対応を検討するに当たっては、危機予測も大事。

今回も「想定外」という言葉が盛んに聞かれたが、過去の多くの事例を検証し、最大限の想像力を働かせて、「想定外」を極力なくすこと、明日起こるかも知れない、今起こるかも知れない、その時どうするか、各々が危機感を持って当たることが重要と考える。

最後に

今回の緊急輸送では多くの人とのかかわりを持ちました。その中で仕事ができたと誇りに思うと同時に感謝しています。

今回の仕事が結果的に「岩手方式」として評価され、成功したと言っていただけるその背景には人と人とのつながりがあったからだと思っています。

最後に被災して生き残った人の言葉を紹介します。私も涙しました。

「生きてくれてありがとう、その笑顔に救われたことが何度あるか、ずっと見慣れた笑顔なのに、目の前の元気な姿を見ていると生きていることが当たり前のように思えてしまうけれど、自分の大切な人が急に消えたとしたら、とてもとても平気でいられるはずがない。

そんなかけがえのない人に、あふれるほどの心の言葉を伝えたい。

生きてくれてありがとう。命のつながり、ありがとう。

無残な街並みに一層の哀れさを感じる、夢で

あって欲しいと何度も思ったが、やはりこれは現実であった。」

これは私の知っている釜石の人が私に言った言葉です。

私はいま考えていることは、「岩手に生きる」「みんなと逢える」その思いを胸に、私たちは心一つにして「復興・新生」に向けて歩み続

けていくこのふるさと岩手を皆さんと見ていきたい。

あれから2年6ヶ月経ちましたが復旧は進んでいないのが現状です。

多くの人に「3・11の災害を忘れてほしくない」と言うのが私の願いです。

例会報告

第9回例会
平成25年9月6日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司会 平井 滋会長
 - ・ソング 奉仕の理想
 - ・国歌 君が代
 - ・入会祝 米内 正・菊池 尚君。
 - ・誕生祝 斎藤和好・福田荘介・長澤 茂・駒木 進・海野 尚・大見山俊雄君。
 - ・結婚祝 加藤正幸君。
 - ・会長報告 平井 滋会長
 - ・幹事報告 平野佳則幹事
- 終了後後定例理事会

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡東R.C.=9月9日(月)は、親睦活動のため15日(日)桃狩り。

【ニコニコBOX】

- ◆小川 惇君…9月30日金曜日に第1回南部杯ゴルフコンペに田中堯史さん、樋山桂さんと私の3人で参加してきました。日本で9番目の古い由緒ある那須ゴルフ倶楽部はよく整備されたすばらしいコースで、更に高い所にあるため思ったより飛ぶという好条件のコースでしたが、名門コースには、レギュラーティとレディースティしかなく、グランドシニアの私はレディースティから打たせていただきましたが、全然だめでした。優勝は樋山会員で本家の面目を保っていたいただきました。なお、来週、東京支部の小西さん(元IBC社長)が東京支部の近況報告に例会に出席するそうです。
- ◆米内 正君…伝統ある盛岡ロータリークラブに入会させていただき、あっという間に12年になりました。会員の皆様に感謝いたしま

す。また、遅刻の常習犯でいつもSAAの皆様にお世話になっております。

- ◆佐藤重昭君…平井会長、平野幹事、盆明けからずっと出席できなくて申し訳ありません!!本日は出席予定だったのですが急遽、遠野出張が入り出席できなくなってしまいました。来週は必ず出席する事を誓ってニコニコします。かろうじてメークアップはしております。

- メークアップ
盛岡北R.C.=金子・中山・田中君。盛岡西R.C.=長澤君。盛岡東R.C.=市丸君。盛岡西北R.C.=岩野・佐藤(重)・佐藤(義)君。盛岡滝ノ沢=星君。クラブ委員会=樋山君。

出席報告

会員数 /69 名

出席数 /41 名

出席率 /62.12%

前々回修正出席率 /81.54%

プログラムの
お知らせ

・9月13日(金) ゲスト卓話 佐々木裕子 様(前年度ロータリー財団親善奨学生)
「帰国報告」

20日(金) ゲスト卓話 内宮 眞 様(財日本ボーイスカウト岩手連盟維持財団理事長)

27日(金) 会員卓話 熊谷昭三 会員

●本号編集担当 / 大見山俊雄

●次号編集担当 / 高柳 一郎